

チャンネルキヤットフィッシュ 駆除釣りガイド

KCB



霞ヶ浦チャンネルキヤットフィッシュバスターズ
Kasumigaura Channel Catfish Busters



茨城大学

広域水圏環境科学教育研究センター

Center for Water Environment Studies (CWES)

このガイドでは、はじめて釣りをする方を対象に、安全性と扱いやすさなどに配慮した釣り方を紹介しています。そのため、一般的な釣り方と異なる箇所もあります。釣り経験者の方には経験を生かして工夫しながら釣ることをおすすめしています。

チャンネルキャットフィッシュ (アメリカナマズ)

Channel Catfish *Ictalurus punctatus*



▲チャンネルキャットフィッシュ (全長70.0 cm, 体長60.5 cm)

分類

ナマズ目 アメリカナマズ科 アメリカナマズ属

原産地

北アメリカ(カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北東部)

特徴

ヒゲは4対8本。背鰭と胸鰭にノコギリ状のトゲがある。
未成魚では体側に黒色斑点が散在する。

2005年に施行された外来生物法に基づいて**特定外来生物**に指定されており、生きたままの個体の運搬、保管、飼育、野外に放つ行為、無許可での譲渡などが規制されている。

導入の経緯

日本への導入は1971年に民間の研究所が養食用に輸入したのが最初。現在では福島県～滋賀県で生息が確認されている。霞ヶ浦には1981年頃に導入され、2000年以降は最も優占する魚種の1つとなっている。

生息場所のシフト

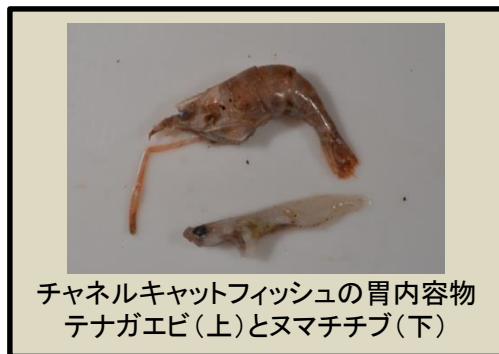
霞ヶ浦での主な生息場所は季節的に変化し、水温10℃未満の12月から3月は主に水深4m以上の深場に分布し、10℃以上になる4月には分布域が拡大、特に21℃以上になると深場から水深1m程度の浅場まで広く分布する傾向にある。産卵に関わる成熟魚は5～7月に水深1mほどの浅場に來遊する。基本的に夜行性で、昼間は物陰や岩の下などに隠れるとされる。

繁殖生態

霞ヶ浦での産卵期は水温24℃以上となる5～7月で、オス・メスともに体長39 cm以上で成熟する。体内卵数は体重1 kgあたり約1万粒、体長45～65 cmの雌で約2万～6万粒。原産地ではオスが岩陰や木の根の下などに作った産卵床でメスが産卵し、オスは卵と仔魚を保護することが知られている。

摂餌生態

餌生物は体サイズや季節で変わるが、環境中に豊富な餌生物を柔軟に利用するとされる。ただし、傾向としては、稚魚期は動物プランクトンやイサザアミを、体長14 cm以上になるとテナガエビやハゼ科魚類を主に捕食し、成長とともに魚食性が強まる。また、本種は下顎のヒゲで餌を探索、捕食するため、表層や中層を活発に遊泳する生物よりも水底にいる生物が捕食されやすい。



チャンネルキャットフィッシュの胃内容物
テナガエビ(上)とヌマチチブ(下)

釣りの準備 1

仕掛け

投げ竿(2 m程度)

ガイド

スピニングリール

ミチイト:ナイロン(4号)

中通しオモリ(5号)

ヨリモドシ(10号)

スナップ付ヨリモドシ(10号)

15 cm程度

ハリス:ナイロン(3号)

丸セイゴ針(16号)

針のカエシはあらかじめペンチなどでつぶしておく。

スナップ付ヨリモドシのスナップを開閉し竿側のヨリモドシに取り付ける。

イトの結び方 (クリンチノット)

- ① 金具にイトの先端を通し4~5回巻きつける。
- ② 金具との間にできた輪にイトの先端を通す。
- ③ ②でできた大きい輪にイトの先端を通す。
- ④ イトの先端をゆっくり引いて締めしていく。
- ⑤ 結び目の形が整ってきたら今度は本線をゆっくり締めしていく。
- ⑥ さらに本線を引き、締める。余分なイトの先端をカットする。

釣りの準備 2

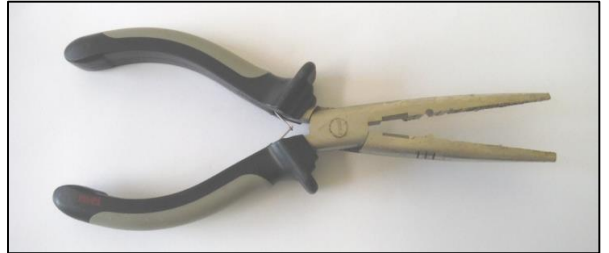
その他の道具

ヘッドライト・ランタン



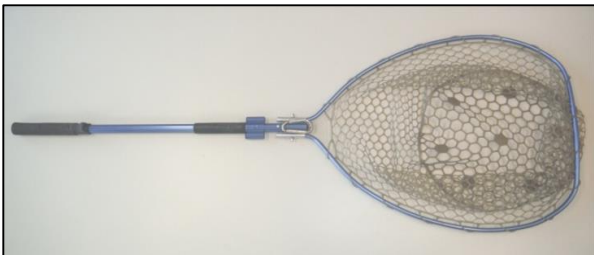
チャネルキャットフィッシュは夜行性なので、昼よりも夕方から夜にかけての方がよく釣れる。ヘッドライトは身の安全・魚のアタリを確認するための必需品。ランタンなどがあると便利。

ペンチ



釣れたとき針を外すために使用する。チャネルキャットフィッシュには胸鰭と背鰭にトゲがあるため、ペンチを使ってできるだけ早く外そう！
針は飲み込まれることが多いため、先端の長いものがおススメ。

網



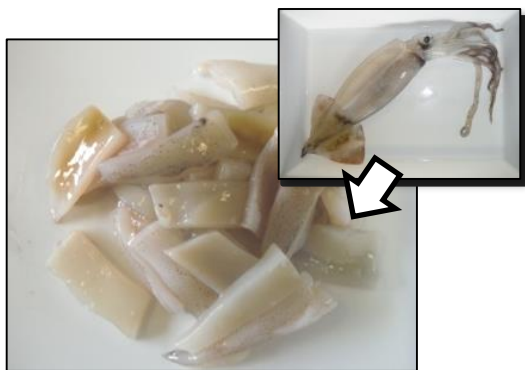
大物がかかったときに、網を使わず竿だけで陸にあげようとすると、イトが切れてしまうことがある。無理をすると、竿にも負担がかかるので、できるだけ網を使用したい。

厚手のゴム手袋・軍手



釣れたチャネルキャットフィッシュから針を外すときに、厚手の手袋・軍手をつけておくと、鋭いトゲから手を保護しやすい。手も汚れずに済む。快適に釣りをしたいときの必需品。

餌



イカの切り身

市販の生のイカを切り身にする。KCBでは約1.5×4.0 cmの短冊状にして使用している。
餌もちがよく、匂いも強くて最適。KCB一番のおススメ！

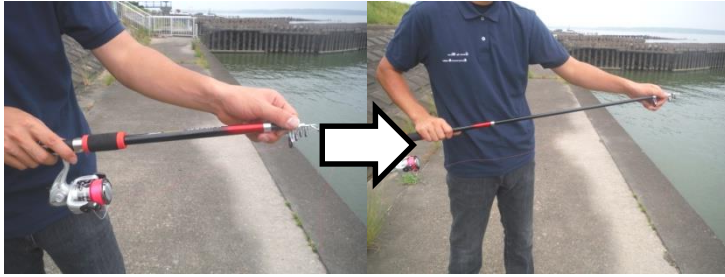


その他の餌

レバーなどの生肉や釣りをする場所でとれるような小魚などでもよく釣れる。ただし餌もちはあまり良くない。

釣り方

Step1 竿と仕掛けの準備



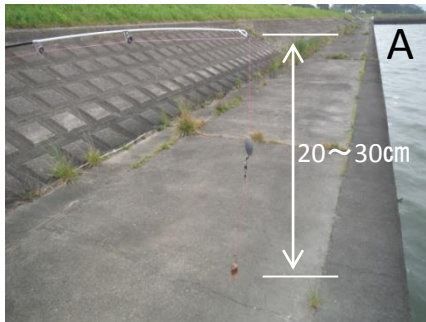
Check!!

たたんである竿は竿の先から順番に出していこう!

<注意点>

- ☑ガイドがまっすぐ並んでいるか?
 - ☑ミチイトが竿に絡まっていないか?
- をチェックしよう!!

Step2 投げる準備



餌や仕掛けをつけたあと、写真Aのように、竿先からイトを20~30cm程度出しておこう。

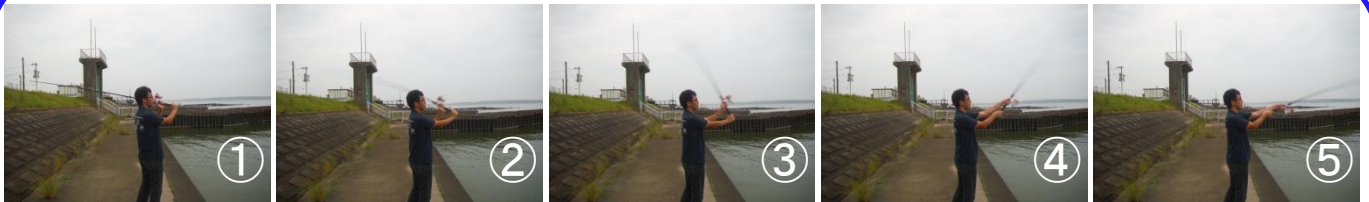
次に、写真Bのようにして

①中指と薬指の間にリールを挟んで竿を持ちイトを人差し指に引っ掛ける。

②ベイルアームを起こす。

※初心者が扱いやすいため、リールを右側(利き手側)につけています。

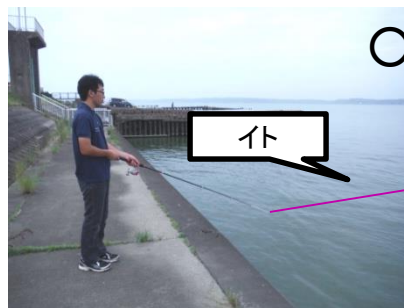
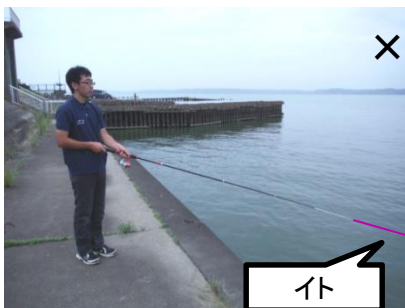
Step3 投げ方



注意 周囲に人がいないことを確認して声をかけてから竿を振り上げましょう!!

◀時計の2時の位置あたりで、イトを抑えていた人差し指を離すと、うまく投げられる!!

Step4 待ち方のコツ



仕掛けを投げ入れたら、ベイルアームを戻しリールを少し巻いてイトを張る。そのままの状態であまり動かさずに魚のアタリを待つ。

◀待つときはイトと竿に少し角度をつけておくと、竿先の動き(魚のアタリ)が分かりやすい!!

Step5 釣りあげ方



× 竿先が引き込まれるような魚の当たりがあったら、竿を後方に軽くあおって合わせる(針掛りさせる)！
魚がかかったら、慌てずに竿を立ててゆっくりとリールを巻いていく。

◀ 右の写真のように竿が寝ているとイトが切られる恐れがある。

Step6 釣りあげたら...



背鰭と胸鰭にはトゲがあり危険です！

針を外すときは十分注意しましょう。



チャンネルキャットフィッシュの口から針を外すときは、厚手の手袋とプライヤーを使うと良い！！
その際、チャンネルキャットフィッシュを持つときは、写真のように上から背鰭を押さえつけるようにし(左)、人差し指と中指で片方の胸鰭を挟むようにすると、ほとんどトゲが刺さらない！！

※実習ではTAを呼んで下さい。



KCBの最大記録は

全長 **83.5 cm**

体長 **72.1 cm**

チャンネルキャットフィッシュの成熟サイズは体長約39 cmとされている。
そのような個体(繁殖する前の親魚)を釣ることができれば効率的に個体数を減らすことができるかも！

引用文献

- 荒山和則 (2010) 特定外来生物チャネルキャットフィッシュに捕食される魚類. 日水誌, **76**, 68-70.
- 荒山和則・岩崎 順 (2012) 霞ヶ浦における近年の外来魚問題—チャネルキャットフィッシュの現状と駆除—. 日水誌, **78**, 761-764.
- 芦原修二 (1984) 川魚図志. 崙書房, 千葉, 404 pp.
- Bailey, R. M. and H. M. Harrison Jr. (1948) Food habits of the southern channel catfish (*Ictalurus lacustris punctatus*) in the Des Moines River, Iowa. *Trans. Am. Fish. Soc.*, **75**, 110-138.
- Brown, B. E., I. Inman and A. Jearld Jr. (1970) Schooling and shelter seeking tendencies in fingerling channel catfish. *Trans. Am. Fish. Soc.*, **99**, 540-545.
- 福田 稔 (1981) アメリカナマズ (チャネルキャットフィッシュ) の産卵数について. 埼玉県水産試験場研究報告, **40**, 8-9.
- Fuller, P. L., L. G. Nico and J. D. Williams (1999) Nonindigenous fishes introduced into inland waters of the United States. American Fisheries Society, Bethesda, Maryland, x + 613 pp.
- 半澤浩美 (2004) 霞ヶ浦におけるチャネルキャットフィッシュ (*Ictalurus punctatus*) の食性. 茨城県内水面水産試験場調査研究報告, **39**, 52-58.
- 半澤浩美・荒山和則 (2007) 霞ヶ浦における外来魚チャネルキャットフィッシュの季節的分布様式. 水産増殖, **55**, 515-520.
- 半澤浩美・野内孝則 (2006) 霞ヶ浦におけるチャネルキャットフィッシュの産卵生態. 茨城県内水面水産試験場調査研究報告, **40**, 1-6.
- 細谷和海 (2013) アメリカナマズ科. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版 (中坊徹次編), 秦野, p. 338.
- Hubert, W. A. (1999) Biology and management of channel catfish. *Am. Fish. Soc. Symp.*, **24**, 3-22.
- 岩崎 順・荒山和則 (2011) チャネルキャットフィッシュ. いばらき魚顔帳.
<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/naisuisi/gyoganchou/index.html>
- 加納光樹・今井 仁 (2008) 魚類Pisces. 日本の外来生物 (自然環境研究センター編), 平凡社, 東京, pp. 121-176.
- 片野 修・坂野博之 (2010) 生き魚を餌として用いるオオクチバスの釣り方とその駆除効果. 保全生態学研究, **15**, 183-191.
- 片野 修・佐久間 徹・岩崎 順・喜多 明・尾崎真澄・坂本 浩・山崎裕治・阿部夏丸・新見克也・上垣雅史 (2010) 日本におけるチャネルキャットフィッシュの現状. 保全生態学研究, **15**, 147-152.
- Lever, C. (1996) Naturalized fishes of the world. Academic Press, Great Britain, xxiv + 408 pp.
- 丸山為蔵・藤井一則・木島利通・前田弘也 (1987) アメリカナマズ. 外国産新魚種の導入経過, 水産庁研究部資源課・水産庁養殖研究所, pp. 123-125.
- Matsuzaki, S., N. Takamura, K. Arayama, A. Tominaga, J. Iwasaki and I. Washitani (2011) Potential impacts of non-native channel catfish on commercially important species in a Japanese lake, as inferred from long-term monitoring data. *Aquat. Conserv.*, **21**, 348-358.
- Newcomb, B. A. (1989) Winter abundance of channel catfish in the channelized Missouri River, Nebraska. *North Am. J. Fish. Manag.*, **9**, 195-202.
- 岡崎 稔・一柳哲也・臼田 博 (2000a) 飛騨清流河ふぐの養殖量産化試験. 岐阜県水産試験場研究報告, **45**, 49-52.
- 大倉 正・梅沢一弘 (1985) アメリカナマズ簡易採卵方法試験 (2). 埼玉県水産試験場研究報告, **44**, 1-8.
- 大倉 正・梅沢一弘 (1986) アメリカナマズ (Channel-catfish) の採卵方法について. 埼玉県水産試験場研究報告, **45**, 25-34.
- 尾崎真澄・宮部多寿 (2007) 利根川下流域におけるチャネルキャットフィッシュの漁獲実態. 千葉県水産総合研究センター研究報告, **2**, 33-41.
- Pellett, T. D., G. J. V. Dyck and J. V. Adams (1998) Seasonal migration and homing of channel catfish in the lower Wisconsin River, Wisconsin. *North Am. J. Fish. Manag.*, **18**, 85-95.
- 梅沢一弘・大倉 正・田崎志郎 (1986) アメリカナマズの0年魚養成. 埼玉県水産試験場研究報告, **45**, 40-46.

霞ヶ浦チャンネルキャットフィッシュバスターズ



2010年8月に茨城大学広域水圏環境科学教育研究センターの釣り好き・魚好きの大学生・大学院生が中心になって、学生サークル「茨城大学チャンネルキャットフィッシュバスターズ(ICB)」を設立した。2013年2月に団体名を「霞ヶ浦チャンネルキャットフィッシュバスターズ(KCB)」に改称し、より広い範囲の学生たちとの連携をはじめた。現在では、茨城大学、東京大学、東京海洋大学、千葉大学の学生16名が所属している。

KCBの活動は、チャンネルキャットフィッシュの駆除釣り、駆除手法の開発、生態調査、在来生物の生息状況調査、臨湖実習での実践的な外来種教育など多岐にわたる。活動に興味のある方は、事務局までご一報ください。

チャンネルキャットフィッシュ駆除釣りガイド

発行日：2014年8月18日 未定稿の試し刷り

編著者：霞ヶ浦チャンネルキャットフィッシュバスターズ(KCB)
遠藤友樹・金子誠也・猪狩健太・滑川結香・小沼亮介・豊田大晃

発行者：茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター内 KCB事務局
〒311-2402 茨城県潮来市大生1375
TEL：0299-66-1577 FAX:0299-67-5175
Email：KaChaBusters@gmail.com
Web：http://kkano.cwes.ibaraki.ac.jp/sub7.html

この駆除釣りガイドは、茨城大学広域水圏環境科学教育研究センターの臨湖実習用テキストとして作成したものです。本テキストの全部または一部を無断で複写複製(コピー)することを禁じています。

©霞ヶ浦チャンネルキャットフィッシュバスターズ(KCB)